

# ねがいとどく 南区へ

コロナ禍のもと、多くの業者が売上の減少を余儀なくされています。国が行っている給付金などの措置も不十分で生活不安が増大しています。京都市に一貫して求めてきた生活支援施策の拡大へ引き続き全力を挙げます。

日本共産党

森田 ゆみ子

## 市民の足、市営交通を守れ

交通局は財政難を理由に10月から1日乗車券を値上げしたり、乗り継ぎにお得なトラフィカ京カードを発売中止にしたりしました。「これまで観光客優先の交通体系にあわせ市内周辺部(極端に本数やバス停が少ない路線)は乗客が乗らなくても市民サービスを継続していたが、コロナで観光客が激減し採算が取れない」と言います。値上げをすれば余計に乗客離れにつながります。民間バスで乗車券を値下げしたことで乗客が増え、増収したところもあります。安くて便利で誰もが安心して使える公共交通へと頑張ります。



## 近況報告

### 「きもの日」 京都市職員も 着物で業務

11月15日の「きもの日」にあわせて、和装文化の振興を目的に市職員も着物で業務にあたりました。産業交通水道委員会で、くらた共子さんと私の共産党女性議員はそろって着物で参加しました。



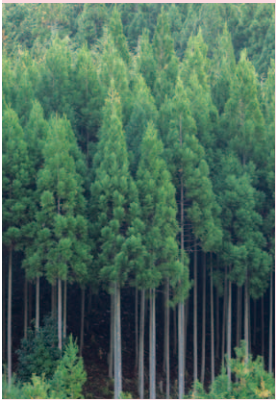
### 毎朝元気に ラジオ体操

家の裏の公園でラジオ体操が始まりました。毎朝6時30分から無理なく元気に取り組んでいます。



## 京都産材の地産地消で 地域経済の循環を

コロナで輸入材の確保が難しく全国的に建材不足が深刻です。京都市には多くの森林があり、建材に適した材木がたくさんありますが、廃材を出さないためにベニヤ板や集成材に加工する大規模な建材業者は市外にあるため高額になり、市内の大工さんは余計確保しにくくなります。市内の製材事業者と連携して、地域循環型の取り組みで市民が潤う市政を目指します。



## 命の水市営水道を守れ

鉛製給水管の部分に長時間浄水が停滞すると有毒物質に汚染されるおそれがあります。水道局では2017年度までに鉛製給水管をゼロにするために取り組んでいましたが、まだ市内で5万カ所以上が残っています。「該当するすべての住民に周知し補助制度を案内している」といいますが、住民や観光客、市内で勤めておられるすべての人に安全な水が提供できるように補助制度の拡充など今後も努力するよう求めました。

